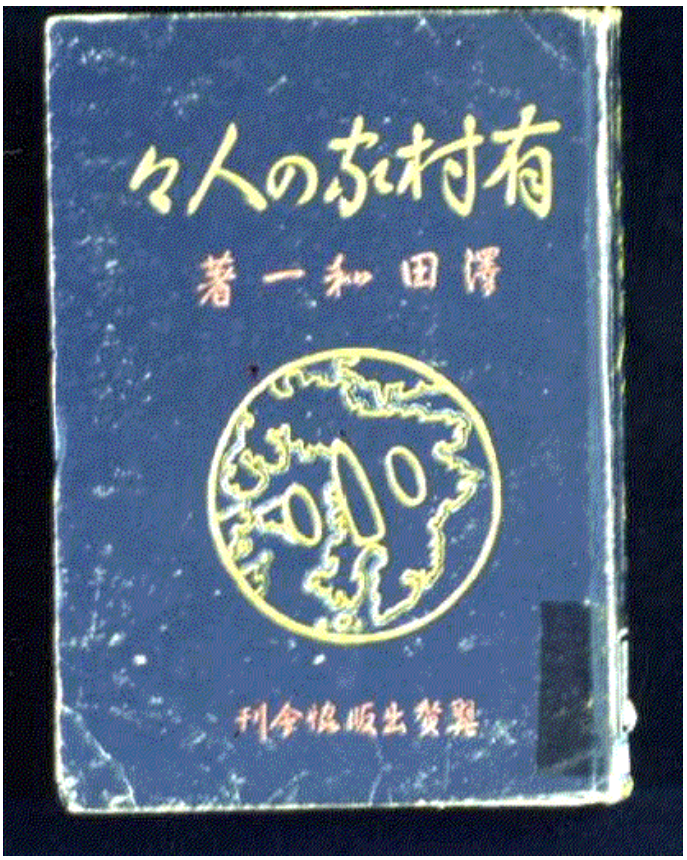
有村家の人々(海江田信義文書)



著者名	出版年	ページ数	大きさ
澤田　和一 著	昭和 19(1944)年	327 ページ	19×13㎝

【資料の紹介】

海江田信義は,有村仁左衛門の長男として生まれ,のちに海江田家の養子となった人です。

当館では,海江田信義文書として,「海江田信義家訓」や「家系草稿」,「薩藩武鑑」などを所蔵していますが,この本は,それら海江田信義文書の中の一つです。本書は,発行所「翼賛出版協会」となっており,昭

和 19 年１月に発行されています。
　本書の序には,「本書は盡忠(じんちゅう)有村家一家が滅私奉公,一家兄弟火の玉となって皇国のために尽くした精神行動を叙したものである。」と記されています。
　本書の内容は,「目次」を参考にするとおよそ次のようになっています。

【内容】

まえがき　　有村家系譜
島津齋彬と勤王党　　雄助の壮烈な自刃
薩摩藩士風と薩摩の母　　この母ありてこそ
有村兄弟の出府　　忠勇義烈母子の書翰
安政戊午の年　　桜田義挙の意義
西郷と俊齋と月照　　生麦事件と薩英戦争
薩摩勤王党の動き　　後日物語
桜田門の義挙　　あとがき

　有村仁左衛門とれん（蓮寿院）には４人の男子，信義，雄助，次左右衛門，國彦と２人の女子が生まれています。
　このうち長男の信義は，海江田家の養子となり武次と改めました。戊辰戦争では，東海道先鋒総督参謀となり，新政府でも要職につきますが，上司への反抗の件で本官免・位返上となります。明治３（１８７０）年８月，奈良県知事に返り咲き，このあと，四等議官を務め，明治１７（１８８４）年，新たに華族に列せられ，子爵となります。１８９０年貴族院議員，翌年枢密顧問官となり，栄達を極めたといえます。
　有村家を有名にしたのが，二男雄助と三男治左衛門です。
　雄助は，精忠組に加わり，井伊大老襲撃の成功を京都の同志に報告する予定でしたが，途中の伊勢四日市で薩摩藩の捕吏に捕えられ，鹿児島に護送され，母，長兄（俊斎のちの信義）弟（國彦）が見守る中で自刃しました。（２８歳）

三男の治左衛門は，江戸に出て，剣を千葉周作の道場で学び，桜田門で井伊大老を襲撃し，首級をあげました。大老の首級を掲げて進んでいたところ，後ろから頭を切りつけられ重傷を負い歩行困難となりました。そこで若年寄遠藤但馬守辻番所附近で首を前にして息絶えました。（２３歳）

四男の國彦は，第五銀行頭取となりました。

また，二女が東郷平八郎元帥の兄四郎兵衛に嫁いだり，長男信義の長女が東郷平八郎元帥に嫁いだりしています。

(参考)

○　「鹿児島大百科辞典」　昭和 56 年　　南日本新聞社